

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

(和文) グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性

(英文) The Multilayered Contacts among Globalizing Intellectual Thought and Religions with regard to the Possibility of the Humanities

2. 研究代表者

(氏名) 奥山直司 (高野山大学文学部・教授)

3. 研究期間

平成 22年 7月 から 平成 25年 3月 まで (2年9月間)

4. 研究目的 (400字程度)

グローバル化が進行する現代社会における思想・宗教の流通と消費の問題を、複数文化の重層的接触という観点でとらえ、現代のみならず、過去150年程度のスパンの中でこれを分析、考察することを目的とする。そのための柱として、宗教と進化論 (ダーウィニズム) をテーマに据え、それらの伝播の諸相を人文学の諸分野にわたって検討する。このうち宗教については、京都大学人文科学研究所人文学国際研究センターの基幹プロジェクトとして進められてきた「複数文化接触領域 (コンタクト・ゾーン) の人文学」における問題意識を継承しつつ、仏教、キリスト教、イスラーム教等の各地への伝播過程や変容過程を複数文化の接触としてとらえ、論じてゆく。また進化論については、これを近代思想の一つと見なし、アジア各地へのその伝播を伝統社会と近代思想との接触の事例と位置付け、専ら人文学的見地から、進化論と宗教との関係、進化論の社会・文化への影響などについて検討を加える。

5. 研究成果の概要 (400字程度)

本研究班は、上述のテーマを共通の広場として、各分野の専門家が発想型で自由に意見を交換し合うことを通じて、思想・宗教のグローバル化を複数文化の重層的接触という視点から捉え直すことを目指した。本研究班が実施した研究会は14回、公開講演会は3回を数える。報告者・講演者は延べ34人、コメンテーター・ディスカッサントとしての参加者は延べ19人である。これらの報告・講演を通じて多様な視点が提供された。それらを内容に即してグループ化するとおよそ次のようになる。

- (1) 宗教のグローバル化の諸相
- (2) 複数文化の接触による思想・宗教の変容
- (3) エンゲイジド・ブディズム (Engaged Buddhism) の展開
- (4) 進化論の近代アジアにおける受容と変容

(5) その他（シンクレティズム論再考、聖地の心霊スポット化、四国遍路の現状報告など）
こうしたトピックを巡る議論を通じて、複数文化の重層的接触という概念を導きの糸として従来の人文学的営みに再検討が加えられ、新たな人文学の可能性が種々に吟味、探求された。

6. 本研究課題に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

○公開講演会 1 「エンゲイジド・ブディズムの定義とその課題」

日時：2011年7月23日（土）14時～17時

場所：人文科学研究所本館大会議室

講師：阿満利磨

コメンテーター：シルヴィオ・ヴィータ、泉恵機、川橋範子

○公開講演会 2 「開発僧－タイ仏教と地域開発」

日時：2012年1月21日（土）14時～18時

場所：人文科学研究所本館大会議室

講師：プラユキ・ナラテポー、泉経武

コメンテーター：ロバート・ローズ

○公開講演会 3 「イコン・焼香・弘法大師－19世紀英国における日本仏教のイメージ」

日時：2013年3月8日（金）18時～20時

場所：人文科学研究所本館大会議室

講師：ルチア・ドルチェ

○公開パネルディスカッション「日本中世の密教」

日時：2013年3月11日（月）15時～17時

場所：高野山大学本館第二会議室

ディスカッサント：ルチア・ドルチェ、日野西眞定、山陰加春夫、乾仁志、佐藤隆彦

コーディネーター：奥山直司

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

2013年9月下旬を目処に成果公表のための公開シンポジウムを開催する。

2014年度中に論文集を刊行する。

（この報告書は本研究所HPなどで公表されます。）